

# 伊那のお寺と仏教文化



2023

2.25 Sat

→ 6.18 Sun

※会期中に一部展示資料の入れ替えがあります。

開館時間 ▶ 9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 ▶ 2/27(月)、3/4(土)・6(月)・13(月)・22(水)、4/24(月)  
5/8(月)・9(火)・15(月)・22(月)・29(月)、6/5(月)・12(月)

展示会の展示替えに伴う臨時休館日 ▶ 2/21(火)~24(金)

入館料 ▶ 一般400円(20名以上の団体300円)高校生以下及び18歳未満の入館料は無料  
身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方1名の入館料を免除

伊那市立  
高遠町歴史博物館

〒396-0213 長野県伊那市高遠町東高遠457  
TEL (0265)94-4444 FAX (0265)94-4460  
MAIL t-rhk@inacity.jp

〈主催〉伊那市教育委員会、伊那市立高遠町歴史博物館

# 伊那のお寺と 仏教文化

伊那市には多くの寺院があり、創建が中世にまで遡るところもあります。中世の伊那市域は

高遠を中心にして天台宗や真言宗の寺院が曹洞宗や日蓮宗の寺院に生まれ変わるといことがしばしば起こりました。その背景には身延山久遠寺や甲州武田氏の勢力が影響しています。江戸時代になると、高遠城下で様々な宗派の寺院が設けられました。明治時代以後は武家社会の崩壊によって寺院の後ろ盾がなくなっていき、檀家が著しく減少した寺などは順に無住寺あるいは廃寺となってきていますが、市内の寺院の数はまだ70近くあり、宗派も8つあります。

令和4年度の第74回特別展「高遠が誇るお寺の文化財」で多くの資料を公開したことで、仏像や仏画、昔の住職や高僧がしたためた書画や檀家による寄附品など、お寺が持つ文化財が非常に多いことを市民に伝えることができましたが、住職の兼務や交代によって所在が曖昧になる場合もあり、所在の把握と公開に向けた活動は継続していく必要があります。

近年、地区で保管してきた葬送関連資料が処分の対象となる事例が増加しています。仏教文化に関する資料は寺院にあるものだけでなく、このようなものも含まれます。

そのため、本展覧会では市内全域に視野を広げ、寺院に遺る貴重な資料や地区に遺されている仏教関連資料を取り上げることで、多くの方に伊那の仏教文化の一端を知っていただき、各地に遺る類似資料の継承について考える機会とします。

## 関連イベント

### 第26回 歴博講座

日時：令和5年5月26日(金) 13:30~15:30

会場：常圓寺、深妙寺(予定)

内容：市内の名刹を拝観し、お寺の歴史と文化について学びます。

事前予約制

定員/30名

参加費/100円



十六善神図/廣勝寺蔵

大般若経を守護する釈迦三尊、法涌・常啼の二菩薩、玄奘三蔵、深沙大将、十六の善神を描いたもの。



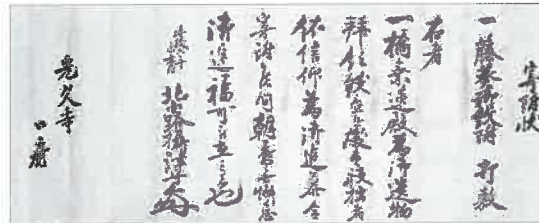
織田軍が奉納した罎口/遠照寺蔵

天正10年(1582)3月の高遠城の戦いの際、諏訪から高遠の山室方面へ入ってきた森長可率いる織田軍の分隊が食料を提供してもらったお礼に奉納したと伝わるもの。



奉納俳額/遠照寺蔵

晒我(高遠藩士青山勝俊)、蛙鳴(『四方のむつみ』編者)、休柳(池上秀敵の祖父、池上庄八)といった高遠の有名な俳人らが句会を開き、詠んだ俳諧連歌を俳額に仕立てて奉納したもの。



寄附状/光久寺蔵

安政6年(1859)12月、京の北小路授津守が「藤葉御紋附打敷」寄附に際して差し出した寄附状。



「羽廣山観世音縁起」挿絵/仲仙寺蔵

文化元年(1804)4月20日に羽広村の林宗賢が描いた仲仙寺本尊の十一面観世音菩薩像。

執達状/光久寺蔵

安政6年(1859)10月、京の北小路大蔵権大輔ほか5名が連署して光久寺に差し出した執達状。



地蔵菩薩/仲仙寺蔵  
寄木造の像に彩色を施した六地藏のうちの1体。



## 伊那市立高遠町歴史博物館

